K08 利用者の顔・全身をはめ込む二次元キャラクタ生成

情報科学部・情報科学科・准教授・澤野　弘明
sawano@aitech.ac.jp

キーワード　電子広告、二次元キャラクタ、顔認識、エンターテインメント

概要

カメラで利用者の顔を検出し、あらかじめ用意された二次元キャラクタと合成するシステムである。街頭の電子広告にカメラを設置するだけで実現可能である。背景やキャラクタの素材を変更するだけで提示される内容も変更される。

また屋内環境であれば、利用者全身を撮影して、利用者自身を拡大縮小することも可能である。すなわち単なる合成ではなく、仮想空間にお客様のキャラクタを配置が可能である。

セールスポイント

1．屋外の電子広告においても顔検出の精度が高く対応可能。
2．キャラクタと背景素材を変更するだけで準備可能
3．全身を撮影して、お客様をそのまま小型人間として拡大・縮小が可能（屋内のみ）

企業等での活用例、今後の展望

1．街頭やイベント会場に設置する電子広告システム
2．利用者をゲームのキャラクタとして生成
3．カラオケルームで撮影された歌い手がディスプレイ上でコンサート会場で熱唱可能

参考資料

・ Youtube: https://www.youtube.com/watch?v=90ejhUMrVnk